

Ⅱ. 国内における水力の新たな価値創造 外部市民ファンドの活用と 小水力発電ツーリズムの提案 —地域小水力開発の内外の連携に向けて—

杉村 剛
HDRI個人会員

1. 小水力発電事業のネオ内発的発展 について

小水力発電事業はこれまで地域外部の大手企業の資本が主流であり、地域住民との合意形成のために建設工事の一部を地元企業に請負わせる場合もあるが、発電所の完成後は地域には固定資産税程度しかメリットがなく、外来型の開発は地域経済の循環に結びつかないケースが多い。地域の自然資源である小水力を利用し、地域内で新たな経済効果を生み出すためには、現状の大手企業依存の開発か

ら地域主体の小水力発電事業に転換する必要がある。しかし、地域主体と言っても人口減少や高齢化により地域の人材や保有資金が縮小する状況下で、内発性を過度に重視した小水力発電事業の考えでは地域が混乱し疲弊していくことが懸念される。近年、ネオ内発的発展の概念が議論されるようになってきている。これは当該地域を主体としたうえで、地域の利益を高めるために地域能力を向上させ、地元と外部の両方の参加の促進を図るものである。表1に地域外部の大企業による外来型開発、地域が単独で開発する内発

表1- 外来型開発、内発的発展、およびネオ内発的発展の特徴

	外来型開発	内発的発展	ネオ内発的発展
開発の主体者	地域外部の大企業等	地域住民, 地域企業, 自治体	地域住民, 地域企業, 自治体 (地域外と協働)
保有資源	豊富な資金, 信用力, 技術力 など	水力資源, 地域内の人的つながり, 地域課題の共有意識	外来型と内発型の両者
開発上の問題	企業利益の優先 合意形成	開発技術, 経験の不足 資金の制約	地域内外の価値観の共有 地域のマネジメント能力
開発の留意点	地域貢献, 公益性 地域のメリット	地域の能力開発 技術・制度の活用	外部資源のハンドリング 地域内外の交流の促進

的發展, および地域が主体となって地域外の専門家・市民・企業等が協働で開発するネオ内発的発展の特徴の比較を示す。

小水力発電事業では, 様々な分野の調査設計, 環境対策, 規制対応(許認可手続き・電気事業法など), 電力会社との契約(系統連系・電力需給契約), 工事関係の調達・発注・工事工程管理, 資金調達, 発電所の維持管理, 財務管理などの専門的なノウハウが必要であり地域だけの対応では困難な場合が多い。その一方で, 住民の合意形成, 地域経営等の課題については大手企業では困難であり, 地域が主体となって解決する必要がある。これをネオ内発的発展に当てはめると, 地域に貢献する水力発電事業を進めるにあたっては, 地域の内発性に過度にこだわらず, 外部の専門技術やノウハウを借り, 地域が主体となって地域内外の交流を促進させることで地域経済がスパイラルアップ的に改善されるような事業スキームを考えるべきである。地域の住民に「結局は大手企業に地域資源を奪われた」と言わしめないためにも, 地域主体の活動を基本として新たな価値創造のしかけを考える必要がある。そのための重要なポイントとしては, 外部の専門家, 大手企業等の広範囲に及ぶ資源, プロセス, 資金調達, 行動を地域のためにハンドリングできるよう, 地域自らの能力をいかにして高めていくかという点であり, 地域に寄り添う明確な支援体制が必要である。

2. 外部市民ファンドとツーリズムを組み合わせた事業モデルの提案

小水力発電が建設される山間部では自己資金が不足しており, 少ない予算で持続的な地方創生を行うことが必要となっ

ている。地域外部の市民ファンドの活用と水力発電ツーリズムによる地域に貢献する小水力発電事業のネオ内発的発展について所感を述べる。

(1) 地域外部の市民ファンドの活用

地域の課題が多様化する中, 公的サービスの提供などにNPOや住民等が主体となって取り組むことが期待されている。地域主体の小水力発電事業では近年, 資金調達の一部に地域外部からの市民ファンドを活用している事例がある。地域外部からの市民ファンドは, 出資者にとって地域の環境への貢献意識, オーナーシップ意識, 預金よりも高い収益が期待できるメリットがあり, また事業者にとっては資金調達リスクが低く, 地域金融機関からの融資の積極性を高めることにもつながる。地域外部からの市民ファンドは匿名組合契約方式を採用するが多い。これは出資者を倒産リスクから隔離し保護するためである。匿名組合契約方式は事業者から見れば, 匿名組合員(出資者)から指図を受けずに事業運営を行えるメリットがある。出資者の役割は, 事業の運営を事業者に任せて分配金を受け取り, 投資収益を得ることに限定されるが, 同時に地域の活性化のための支援の意思表示をしていることにもなる。市民ファンドの出資者は, 一般市民だけでなく, 環境・エネルギー・地域創生に関心があり, 地域のための水力開発に賛同する企業等も参加することが望まれる。

(2) 小水力発電ツーリズム提案

地域外部からの市民ファンドの出資者は, 出資したお金がどのように使われているのか確認できないことに対して不安がある。そこで小水力発電ツーリズムを提案したい。小水力発電所の周辺は山間

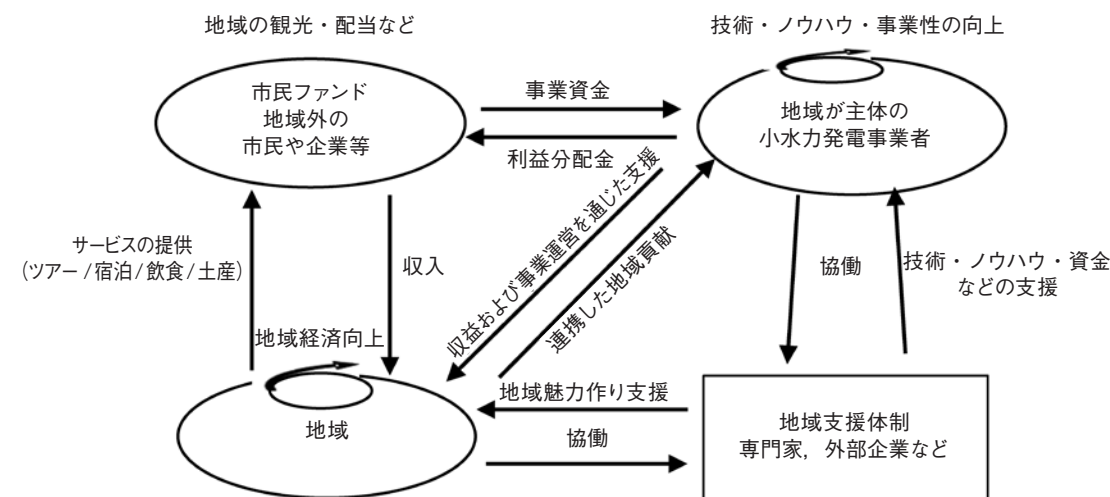


図1-小水力発電の市民ファンドとツーリズム

地域で, 豊かな自然を体験でき, 出資者は山や川歩きによる自然観察, 水力発電設備の見学, さらには地域の様々な伝統・文化を楽しむツアーに参加することができる。また, 工事中にツーリズムを実施すれば, これまであまり注目されなかった水力発電の様々な分野の技術なども観光資源として活用し, 体験型・交流型・学習型の要素を取り入れたツーリズムとすることも可能である。この際, 総合学習のテーマや現地見学のコースの検討, 地域における語り部の育成が重要である。このように, 工事の段階から始まって完成後も継続的にツーリズムによる経済効果をもたらすことが考えられる。また, 地域の祭りや観光イベントのタイミングに合わせて実施すれば, 地域住民との交流の機会が増えて家族や知人と一緒に参加することも増えていくのではないかと。地域の自然や文化に接する魅力がツーリズム参加の動機となり市民ファンドの出資拡大につながるようになる。宿泊や, 地元の山と川の幸を使った食事, お土産などのサービス提供の魅力を高めるも大切である。

このように地域内外の相互の関係を作り出せば, 地域の仕事とお金が回転し雇用効果が高まるだろう。さらにこれらの収益を地域内で再投資すれば地域経済は一層高まっていく。小水力発電ツーリズムは地域の魅力を生かし, さらに高めて, 持続的な経済・雇用の創出につなげる視点が重要である。

地域が主体となった小水力発電事業において, 小水力発電ツーリズムを成功させるためには, 地域に貢献する事業スキームとは何か, 次世代のためにできることは何かを考え, 当該地域における多様な主体を巻き込み, 地域の内外の人的ネットワークの構築を考えていく必要がある。そして, 小水力発電とその事業化, 地域の自然, 文化, 産業, コミュニティについての学びの場が必要であり, 専門的な支援が必要である。小水力発電事業が地域の幸福に資するために, 地域の資源や外部の資金, 技術が地域の実情を踏まえて有効に活用されることを期待する。本稿がそのような発想のヒントになれば幸いである。